

**製品名: MSK1 (リン酸化Ser360) ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe21517**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	ホスホ
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

**応用**

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:90kD;Observed MW:90kD

**抗原情報**

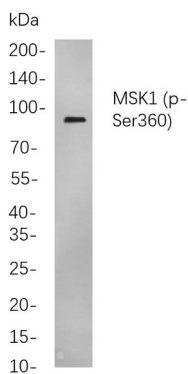
遺伝子名	RPS6KA5 RPS6KA5;MSK1;Ribosomal protein S6 kinase alpha-5;S6K-alpha-5;90 kDa ribosomal protein
別名	S6 kinase 5;Nuclear mitogen- and stress-activated protein kinase 1;RSK-like protein kinase;RSKL
遺伝子 ID	9252.0
SwissProt ID	O75582
免疫原	標的タンパク質の残基に対応する合成リン酸化ペプチド

**背景**

細胞局在: 細胞質、核。触媒活性:  $ATP + \text{タンパク質} = ADP + \text{リン酸化タンパク質}$ 。補因子: マグネシウム。酵素調節: スレオニンおよびセリン残基の多重リン酸化によって活性化されると考えられる。ERK1/2 および MAPK14/p38-alpha がこの過程で役割を果たす可能性がある。機能: 転写因子 CREB (cAMP 応答配列結合タンパク質) および ATF1 (活性化転写因子 1) のマイトジェンまたはストレス誘導性リン酸化に必要なセリン/スレオニンキナーゼ。TNF に対する RELA 転写活性の制御に必須。ヒストン H2A の「Ser-1」のリン酸化を介して転写を直接抑制する。ヒストン H3 の Ser-10 をリン酸化します。これは、マイトジェン、ストレス刺激、上皮成長因子 (EGF) に反応して、前初期遺伝子 (プロトオンコゲン c-fos/FOS、c-jun/JUN など) の転写活性化を引き起こします。ヒストン H3 の Ser-28 もリン酸化することがあります。また、マイトジェンおよびストレス誘導性の高移動度タンパク質群 14 (HMG-14) のリン酸化を媒介します。、その他: 酵素活性には両方のキナーゼドメインが必要です。、PTM: キナーゼ活性には Ser-376 と Thr-581 のリン酸化が必要です。Ser-376 と Ser-212 は C 末端キナーゼドメインによって自己リン酸化され、そのリン酸化は N 末端キナーゼドメインの触媒活性に不可欠です。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。AGC Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。S6 キナーゼサブファミリー。、類似性: AGC キナーゼ C 末端ドメインを 1 つ含む。、類似性: タンパク質キナーゼドメインを 2 つ含む。細胞内局在: 主に核内。一部は細胞質内。、サブユニット: 静止細胞において ERK1 または ERK2 と複合体を形成し、分裂促進刺激により一時的に解離する。また、MAPK14/p38- $\alpha$  とも会合する。活性化 RPS6KA5 は NF- $\kappa$ B p65 サブユニット RELA と会合し、リン酸化を行う。、組織特異性: 心臓、脳、胎盤で広く発現し、高濃度である。肺、腎臓、肝臓では少量である。、

## 研究分野

## 画像データ



C6 細胞ライセートのウェスタンブロット解析

MSK1 (p-Ser360) ウサギ mAb を用いた。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG 抗体を用いた。